

# オクマン山古墳

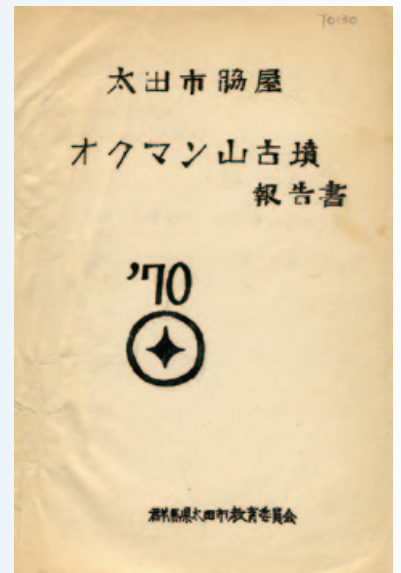


オクマン山古墳は、太田市城西町に所在した古墳です。由良台地の北端部近くの台地上に古地し、西方約200mに脇屋正法寺があります。昭和13年(1938年)に刊行された「上毛古墳総覧」には、宝泉村「第1号オクマン山」と記載され、脇屋古墳群の中核をなす古墳と考えられます。昭和25年に木暮仁一氏、昭和45年に太田市教育委員会、昭和48年に群馬県教育委員会、平成12年に太田市教育委員会がそれぞれ発掘調査を実施しています。現在、オクマン山古墳は、開発により消滅し、その姿を見ることはできません。

古墳時代後期(6世紀末)の円墳で、墳丘は基壇径36m、封土径22m前後の円墳で、2段ないしは3段に築造されていたものと推定され、葺石が施されていたと考えられます。周囲には、幅3.5m前後の周掘が廻り、石室入口前にはブリッジ(陸橋部)が認められ、そこから内側に石室へとつづく墓道状の掘り込みも認められました。

主体部(埋葬施設)は、南西側が入口部となる全長約8mの横穴式袖無型石室です。石室の石材は、溶結凝灰岩(金山石)の割り石を使用し、埋葬部と閉鎖部は石で区切られていました。主体部からの出土品は、金銅製耳環8点・琥珀製棗玉3点以上・鉄製刀装具1点・鉄鏃21点・刀子片3点・人歯2点が出土しています。

埴輪の配列は、円筒埴輪が径約26mの円周上にほぼ隙間なく立てられていたようです。また、石室の入り口に向かって右側に貴人埴輪2体・鷹匠埴輪1体・農夫2体・馬形埴輪7体が連なるように確認されました。そのやや後方に家形埴輪が置かれ、北側には大刀・韌・翳などの器財埴輪が集中して置かれていました。



オクマン山古墳報告書表紙 (1970年)



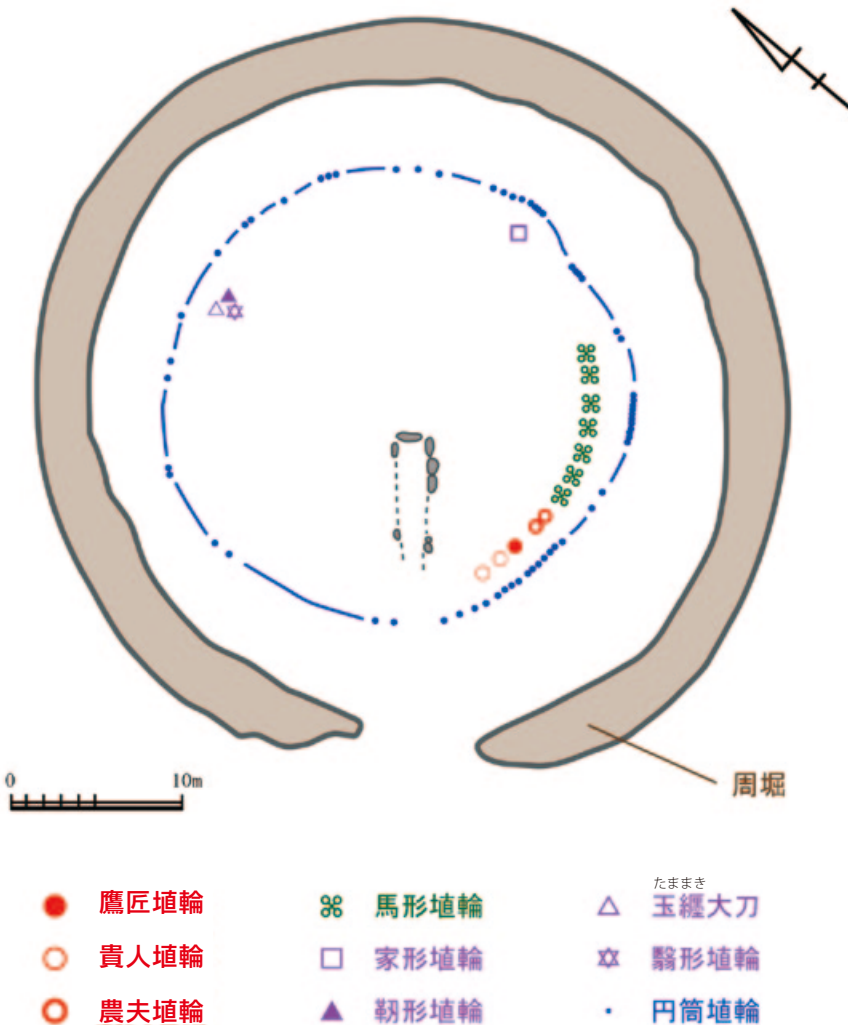
昭和25年当時現況



北西側 大刀、韌、翳埴輪出土状況 (昭和25年)



人物埴輪出土状況 (昭和25年)



オクマン山古墳埴輪配列図

※「太田市史」通史編 原始古代より作成



位置図



昭和45年現況



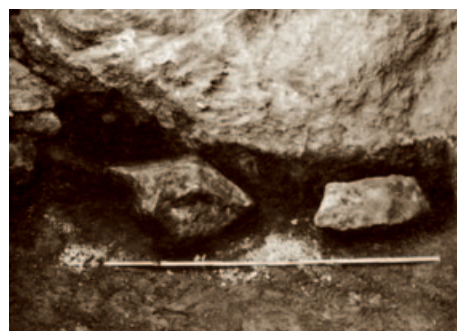
東側トレンチ (昭和45年)



東側円筒埴輪列出土状況 (昭和45年)



金銅製環No.3琥珀玉出土状況 (昭和45年)



奥壁下支石使用状況 (昭和45年)



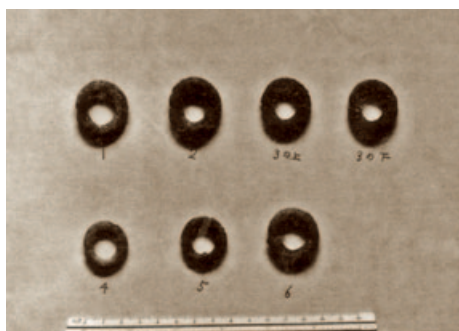
石室入口はじきつき土師器坏出土状況 (昭和45年)



奥壁裏込め状況 (昭和45年)



琥珀玉 (昭和45年)



金銅製耳環 (昭和45年)



石室内出土遺物 (昭和45年)



石室全景 (昭和45年)



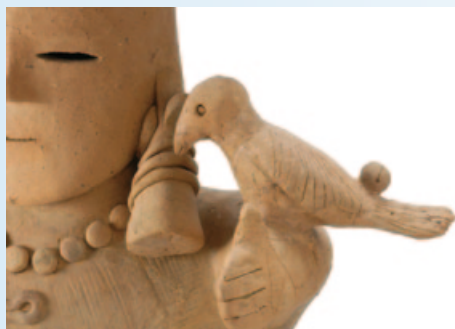
たかじょう  
①鷹匠埴輪

(高さ147.0cm) 太田市指定重要文化財 (平成10年度保存修理)

飼いならした鷹を放って鳥等を捕える男性を表現している。左手には尾に鈴を付けた全長15cm程の鷹をとめ、中広の鏝のある帽子をかぶり、肩まで垂らした美豆良を結び、耳環をしている。裾縁に鋸歯文を施した袴をつけ、腰には大帯をしめた身仕度をしている。正装した



(側面鷹拡大)



(正面鷹拡大)



(側面腰部拡大)



個人・太田市教育委員会蔵

人物は相当高い位であったと思われ、鷹狩りが支配者層の狩猟行事であったことを物語っている。人物の表現は言うに及ばず、鷹、鈴、鞆、餌籠と思われる編籠細部に至るまで巧みに造られている。



鷹匠埴輪出土状況



(昭和45年) 復元された鷹匠埴輪



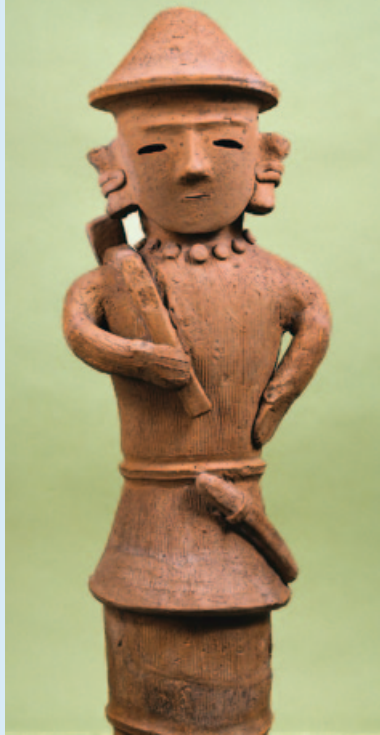
たかじょうくん



②帽子をかぶりくわ鋤をかつぐ農夫  
(高さ85.5cm)  
頭巾風の帽子をかぶり、小さな美豆良結みずらった男子。左手を胸に当て肩にかけて鋤を右手で握る。左手は左胸に添えられる。



出土当時の農夫と貴人頭部・鷹



③笠をかぶり鋤をかつぐ農夫  
(高さ75.0cm) 京都国立博物館蔵 重要美術品  
菅笠をかぶり、大きな美豆良を結び、丸玉の首飾りをした男子。右肩に鋤をかつぎ、左手は腰に添えられ、腰には小刀を帯びる。



⑤はそう臑をかかけるみこ巫女  
(高さ63.5cm)

つぶし島田の髪を結び、おでこにくし櫛を挿し、丸玉の首飾り・耳環・腕輪をし、左手で臑をかかけ、右手は欠損する。左肩からたすきを垂らす。



④鋤をかつぐ農夫 (高さ73cm) 群馬県立歴史博物館蔵  
頭部に突起をもつ浅鉢形の笠をかぶり、耳上に白形に束ねた美豆良を結び、耳環を飾った男子。右肩から右胸にかけて鋤の剥離痕がある。右手は欠損するが、左手は左胸に添えられる。



⑥人物 手部分  
(左高さ15.7cm、右高さ9.4cm)



⑦人物 肩部分(内側) (高さ13.5cm)



⑧巫女頭部 (高さ23.5cm)  
つぶし島田の髪を結び、おでこに櫛を挿し、丸玉の首飾り・耳環をつけた巫女の頭部である。



⑨ 貴人 台座と足部分 (高さ65.3cm)



⑪ 貴人 頭部



(高さ24.3cm)

⑨ 袴をはく男子像。貴人と推定する。この貴人像は、袴と台座の刷毛目痕が違う。刷毛(整形用の工具)が、一人一工具を使用すると台座と上部の人物部分の工人が違うこととなる。埴輪制作の分業制を表す埴輪の可能性はある。



台座の刷毛目



袴の刷毛目

⑩ 袴をはく男子像。貴人と推定する。

⑪ 鏝のある帽子をかぶり、肩まで垂らした美豆良を結び、耳環をする貴人の頭部である。



⑩ 貴人 台座 (高さ54.5cm)



⑫ 翳形埴輪 (高さ36.5cm)

翳は長い柄に大きな団扇をつけた送風の役目を持つ道具で、儀式に用いられたとみられる。



⑬ 家形埴輪 (破片であるが数個体分ある。)



⑭ 鞆形埴輪 (高さ35.5cm)  
背中に背負い矢を射れる箱



⑮ 玉纏大刀 (最大長19.0cm)



⑯ 盾形埴輪 (最大長19.0cm)



⑰飾り馬

(高さ112.0cm) 太田市指定重要文化財 (平成23年度保存修理)

頭部に環状鏡板轡かんじょうがみがいたくつわを付け、鬣たてがみは高く、前端は円柱表現される。背には鞍くらを置く。胸繫むながいには鈴が4つ付けられ、尻繫しりがいには雲珠うんすが装着されている。



⑱馬形埴輪 顔・耳部分

(最大長24.0cm)



⑲馬形埴輪 鞍部分

(長さ39.0cm)



馬形埴輪出土状況

(昭和25年)



⑳馬形埴輪 腹部分

(長さ31.5cm)



㉑馬形埴輪 臀部(尻)

(高さ51.0cm)



復元された馬形埴輪

- ・③「笠をかぶり鎌をかつぐ農夫」の写真については、京都国立博物館から借用し、掲載いたしました。
- ・①「鷹匠埴輪」・④「鎌をかつぐ農夫」の写真については、群馬県立歴史博物館から借用し、掲載いたしました。
- ・木暮仁一コレクションー 昭和25年のオクマン山古墳の発掘調査で出土した埴輪を中心にした資料。平成23年度に太田市へ寄贈された。⑥・⑦・⑨・⑩・⑪・⑬・⑮・⑯・⑱
- ・金子コレクションー 金子規矩雄氏が収集したコレクション。平成12年に太田市(当時尾島町)へ寄贈された。⑤・⑧・⑫
- ・旧生品中学校所蔵品ー 平成22年度に太田市へ所管替え。昭和25年の発掘調査資料。⑭・⑰・⑳・㉑

**太田市教育委員会  
文化財課**

〒370-0495 群馬県太田市粕川町520  
TEL0276-20-7090 FAX0276-52-6080  
印刷 平成24年3月